



Clinical Coordinator

田中歯科医院 / 田中インプラントデンタルクリニック

「噛めてこそ人生」 を実現するために どうしたらいいかを伝えるのが私たちの役目!

「これからは、すごく大事になるから勉強しておいで」
そんな院長先生のと押しをきっかけに参加した
クリニカル・コーディネーターのセミナー。
受付からクリニカル・コーディネーターに転身して
今年で3年目を迎えます。
「すごく大事になる」と言った院長先生の思いを今、
ふたりはどんな風の実現しているのでしょうか!?



患者さんにわかりやすく説明するための資料づくりにも力を入れています。

どうすればこの先ずっと快適に噛めるかを説明するのも医療だと気づいたんです

松本さん 医院みんなで大抵しているのが、「噛めてこそ人生」という言葉です。しっかりと噛めない栄養がちゃんと摂れなかったり、ボケてしまったり。健康な状態で長生きできないうすね。

歯科治療とは、医療者側が勝手にすすめていくものではなく、どのように治療をしていくか、治療後はどうやって歯を守っていくかを患者さんと一緒に決めていくことだと日々院長に言われています。それをわかりやすく伝え、ドクターや歯科衛生士それぞれが自分の仕事に集中できるようにするのが私たちの役目です。



岡田 早香さん

2010年4月
クリニカル・コーディネーター
アドバンスコース(修了)

朝礼では、新聞から気になる記事をまとめて1分間で話すトレーニングをしています。患者さんとのコミュニケーションに役立ちます!



松本 詳示さん

2010年4月
クリニカル・コーディネーター
アドバンスコース(修了)

今後は、初期治療後のカウンセリングにも力を入れていきたいですねって話しています。来院している患者さんの満足度を上げるためにも、患者さんの声を歯科衛生士に伝えて反映していきたいですね。

「こんなに親身になってもらったのははじめて」と言われます。私自身、クリニカル・コーディネーターとして患者さん一人ひとりと向き合っていくようになって意識が変わったことがあるんです。それは、その患者さんが生涯自分の歯で食べて快適に生活するために何が必要かという視点でお話できるように。今まではなんの根拠もなく自費治療が高いという認識をもっていました。でも、患者さんにとって最適な選択手段をお伝えするということ発想がもてるようになってからは、きちんとその意味を説明できるようになっています。

岡田さん 具体的に患者さんのお話をすると、今インプラントの治療で通われている81歳の女性患者さんがいらつやいます。「入れ歯が合わなくてどうにかしてほしい」ということで来院されました。でも、話を聞くうちに「歳が歳だからこんなこといふのは恥ずかしくてこれまでなかなか言えなかったんだけど、本当は入れ歯なんかしたくないの」と言うのです。この気持ちを聞き出せなかったら患者さんの本当の満足は得られなかったと思うので、患者さんには「ありがとう」

81歳の患者さんがこれからも元気でいられるようにサポートしていきたいですね

松本さん こちらがちょっとした説明だと思っていることも、患者さんには「ありがとう」

丸2年かかった治療をようやく終え、今はメインテナンスに通っていただいたいです。お食事がしっかりとできるようになったこととお顔も以前に比べて健康的にふつからしてきました。その姿を見て、ああ、よかったなと実感しています。

松本さん 私も、その81歳の方がちよつと快適に噛めるようになっていく姿を見て本当にうれしいです。「お漬物を思いつきり食べられるようになりたい」と言っていました。

私たちは食べたいものが食べられない辛さってあまり分らないですけど、自分の歯で噛めるって本当に幸せなことなんですよ。噛めてこそ人生を実現するためにどうしたらいいかを、患者さんにこれからも伝えていきたい。そのために、さらに知識をつけてどんな方にも対応できるようにレベルアップしていきたいです。自分でもこんなに続くと思っていなかったけど、今は仕事が本当に楽しい。噛める喜びや幸せに貢献できる仕事だと思つと、がんばろうという気持ちが出てきます。